

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム おひさまの家

目標達成計画書

作成日: 平成 23 年 07 月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	利用者の認知度レベル低下及び低下に伴う身体機能の変化を職員が的確に捉える観察力を養い、状況判断の上、利用者にとって最良な自立支援が出来る様に職員間の支援の共有化する。	利用者各自の残存機能(認知度、その人らしさ、心身)の見直し、	利用者の現状を踏まえ①出来る②出来そう③出来ない事柄について検討し、生活支援を職員で協議の上利用者へ適正な支援提供できるように全員で共有化する。	6ヶ月
2	2	利用者の身体安全確保の対応策として高齢に伴う疾病の早期発見、早期治療、及び転倒に伴う骨折・傷害からの危険回避を徹底化する	心身の健康管理の強化、環境整備の見直し	利用者各自の情報をもとに病歴、服薬を正確に理解・把握し日々の体調の変化をキャッチすることを励行し、職員間の「ホウ・レン・ソウ」を徹底する。特に夜間の急変時を想定し万全策を確立し共有できるようにする。	10ヶ月
3	3	職員各自の介護レベル(接遇・技術・捉え方・判断力)に関しレベルの差を感じる。	介護全般においてレベルの統一化を図る	介護人として相応しい人材育成の一環として、全員で「モラル・UP・UP」を掲げ、月例会議にリーダー中心に前月のふり返りと問題解決案を出し合う。今後はこの繰り返しと連動して現状を踏まえつつ利用者にとり最良の介護法を職員間で話し合い双方が満足を得るものとする。	10ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。